佐賀市教育研究所ニュースレター

木漏れ陽 9月

平成３０年９月３日第５２号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 松島正和

後輩を育てる

先日、大学１年生１３０人に話をする機会がありました。佐賀市内の小学校で９月に行う３日間の「教育実践フィールド演習Ⅰ」の事前指導です。学校現場での様々な体験活動を通して、教育への関心と教職への意欲をもたせることが目的になります。大学１年生といえば、数ヶ月前までは高校生だったわけです。今までは教えられる立場だったのが、今度は自分が教える立場になるので、意識を変える必要があります。そこで大学生に以下のことを伝えました。

1　どんな教師になりたいかを考え、そのためにどのようなことを学びたいかという自分の目標をもちましょう。
2　教師の立場に立って、見たり聞いたり話したりしましょう。
3　礼儀を重んじ、態度や身なり、言葉遣いに気をつけましょう。挨拶は自分から進んで行いましょう。
4　積極的に児童と関わり、児童のことを知りましょう。３日間という短い日数ですが、配属された学級の全ての児童に声をかけ、関わりをもちましょう。
5　時間に余裕をもって行動しましょう。特に朝の出勤時は早めに出ましょう。
6　自分にできることを見つけて、自分から行動しましょう。積極的な姿勢で励みましょう。
7　知らないのが当たり前なので、分からないことは担当の先生に尋ねましょう。
8　心と体の健康維持に心がけましょう。
9　同じ小学校に配属になった人とのつながりを大切にし、互いに高め合いましょう。
10　大学から配布されている資料を熟読しましょう。

大学からの配布資料の中に留意事項やポイントが示してありました。まずは、その資料を熟読してほしいことを伝えました。読んでいませんでしたとか知りませんでしたということでは困ります。その資料の中から、特に次の３点について確認をしました。

①　演習中知り得た個人情報については、演習終了後といえども絶対に他言しないこと。SNS 上には絶対あげないこと。
②　貴重品は、朝必ず教頭先生または担当の先生に預け、帰りに受け取るようにすること。携帯電話やカメラ等を教室に持ち込まないこと。
③　児童に対して物品を与えたり、また、もらったりしないこと。

指導した内容は、経験を積んだ教師にとっても、時々見直したい重要なことと言えます。実習生を受け入れる学校側としては、少なからず負荷がかかることになると思います。しかし、実習生を受け入れたことによって、担当の先生は刺激を受け、実習生と共に自分をふり返るよい機会になるなどプラスに影響することも考えられます。今後、大量退職と共に新規採用の先生が増えてきます。将来の教育界を担う人材を育てるために、私たちの後輩を育てるという視点で実習生を指導していただければと思います。

（佐賀市学校教育課　指導主事　行徳武彦）

平成30年度個人研究　9名の先生に委嘱

今年度は、９名の先生に個人研究を委嘱しました。自分の研究主題に基づいて１年間研究を積み重ねた成果は、平成３１年１月２４日に計画の佐賀市教育研究発表会で発表の予定です。佐賀市の先生方の教師力向上に資す内容で、参考になる取り組みがたくさんあると思いますので当日はぜひお出かけください。

学校名	氏　名	分　野	研　究　の　概　要（主題文より一部抜粋しています）
赤松小	山口純平	特別活動	学級生活の楽しさを見出し、よりよい学級をつくろうとする子供の育成
高木瀬小	石丸稚菜	外国語活動	外国語と出会う段階でのスムーズな接続を作る授業のあり方を探る
高木瀬小	江口貴文	算数科	算数科における交流活動のあり方とその効果を探る
鍋島小	冨永美奈子	特別活動	学級活動における主体的・対話的で深い学びのあり方
春日小	江頭渉吾	社会・総合	地域を愛し誇りを感じる児童を育てる学習指導方法の研究
思斉小	井田丈嗣	体育科	児童が生き生きと学び続け、基本的な動きや技能を身に付ける体育科授業
思斉小	中山ももこ	音楽科	単元を見通しながら意欲的に器楽を楽しむ児童の育成
北川副小	古賀貴美子	道徳	一人一人が生き生きと輝き、自他の違いや多様性を認め合う学級を目指して
北川副小	高野晋輔	国語科	自分の考えを持ち、伝え合い、考えを比べ合おうとする子供の育成

初任者の先生もがんばっています。

４０名の初任者の先生も、指導教員や先輩の先生方に支えられて研修をがんばっておられます。研究授業５回を含む校内における年間１５０時間の研修、１３日～１４日の校外研修を、計画に沿って行います。校内研修では、何よりも職場の先輩に学ぶことが多いと思います。行事の多い２学期ですが、一つ一つの行事や研究授業をやり遂げるごとに、初任者の先生方も子供とともに成長されることと思います。初めてのことも多く、わからないこともたくさんあると思いますが学校全体で初任者を育てる気運を盛り上げ、些細なことでもいいので、初任者の先生にはぜひ声をかけてくださるようお願いします。

（教育研究所指導員　大久保美奈子）

特別支援教育に関わって

学校教育課に特別支援教育係ができて３年。色々な意味で、特別支援教育にスポットライトが当たっている今日この頃です。特別支援教育係は、特別支援教育に係る色々な仕事をしていますが、「学校が楽しくなるような環境づくり」に多方面から心を砕いています。

【学校へ向けて】

多くの先生方に、特別支援教育について関心をもってもらい、特別支援教育のノウハウを広めていくために、特別支援学級の支援に役立つ情報提供や研修会を開いています。また、通常学級の児童生徒の支援に生活指導員を配置したり、特別支援学級の児童生徒の支援に、特別支援学級支援員を配置したりしています。

【保護者へ向けて】

学校教育課と保育幼稚園課との連携で、「就学についての保護者説明会」と「就学相談」を実施しています。これは、子供達の就学について、よりよい就学先を相談するものです。今年度の保護者説明会は、４００名を越す参加で、就学相談も１４０ケースの相談となりました。

新１年生の「ランドセルを何色にする？」そんなことが話題にあがる時期ですが、保護者の就学に関する悩みは大きなものです。

保護者の相談には、学校教育課だけでなく、保育幼稚園課と連携して、「何とか、お役に立ちたい」という思いで対応しています。来年の春のことですが、１年前のこの時期から、中にはもっと前から、よりよい就学を目指し、悩みの季節を乗り越えて、春の入学式があるのですね。

（特別支援教育係就学指導員　小森京子）